



KONICA MINOLTA

## News Release

# 学校教育向けソリューション「tomoLinks®（トモリンクス）」、「すららドリル」と AI を組み合わせた学習支援に関する連携を開始 ～国内初※AIドリル×AIドリルの連携で学習の分析と提案を強化、 より個別最適な学びの実現へ～

2025年4月22日

コニカミノルタジャパン株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：一條 啓介、以下 コニカミノルタジャパン）は、学校教育向けソリューション「tomoLinks®（トモリンクス）」の「先生×AIアシスト」サービスにおいて、AIを搭載したデジタル学習教材などを提供するすららネット株式会社（以下 すららネット）の「すららドリル」と連携し、2025年度中に両社のAIを組み合わせた新しい学習支援の仕組みを開始します。初等中等教育における公教育市場において、AIを搭載したデジタルドリル同士の連携は国内で初めてとなります。本連携により、これまで以上に子どもたち一人ひとりの力を引き出す個別最適な学びの実現を目指します。

また本連携や取り組みの詳細については、2025年4月23日(水)～4月25日(金)に開催される「EDIX 東京 2025」にて展示説明を行います。

※初等中等教育における公教育市場において（コニカミノルタジャパン調べ）

学校教育向けソリューション

tomoLinks

すららドリル

### 【tomoLinks「先生×AIアシスト」×「すららドリル」連携の背景】

現在の学校教育現場においては、子どもたちの学習環境や学習習熟度の多様化が進んでおり、誰一人取り残すことのない個別最適な学びをどう実現するか、ということが共通の課題となっています。一方で、教員の業務過多による長時間労働や人手不足といった問題も深刻化しており、個別のフォローまで手が回らないという現状が多く見られています。こうした状況を受けて、文部科学省はAIやデータを活用した学びの支援や、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の加速を重要な施策としています。

コニカミノルタジャパンはこれまでも「tomoLinks」の「先生×AIアシスト」サービスのAIドリル機能やダッシュボード機能により、全国学力・学習状況調査や他社の学習ドリルといった外部データを含む幅広いデータをもとに、学習の定着度を測り、一人ひとりに最適な教材を提案することで学習の支援を行ってきました。しかし近年の生成AIの普及により、教育現場において

AIが求められる役割は、一人ひとりの学習ペースや習熟度に合った教材を提示することだけでなく、授業支援やつまずきの可視化、学習の伴走など、より高度で柔軟な活用にまで及んでいます。

コニカミノルタジャパンは、すららネットの「すららドリル」と連携し、デジタル教材や学習分析、教育データ活用における「AI×AIの連携」という新たなアプローチを行うことで、学習者一人ひとりに合った学びをよりの確かつ柔軟に提供するとともに、教員の業務負担軽減といった教育現場の課題解決にも広く貢献していきます。

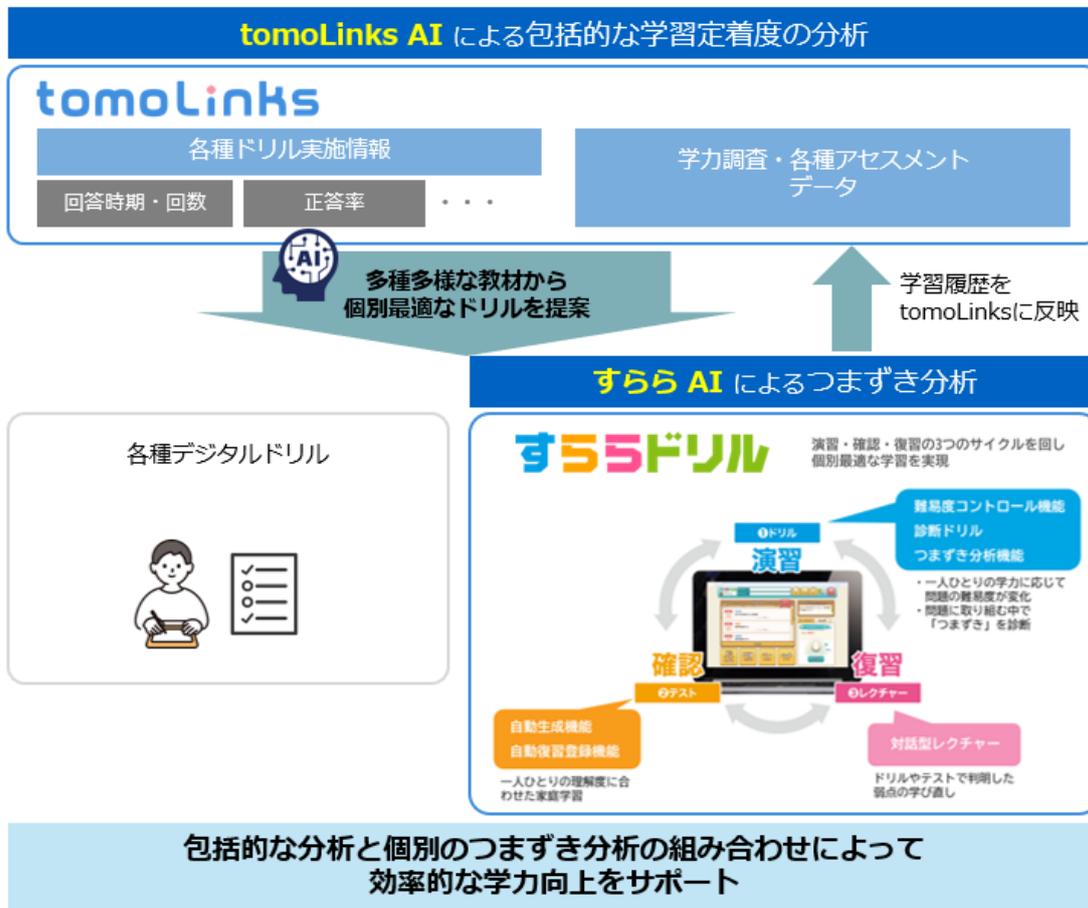
### **【tomoLinks×すららドリルの連携が提供する価値】**

#### **1. 「学習定着度分析」と「つまずき分析」で、より一人ひとりに最適な学びを提案**

「tomoLinks」の「先生×AIアシスト」サービスのAIは、その広い拡張性により、全国学力・学習状況調査や他社のデジタルドリルといった外部データをもとにした「包括的な学習定着度の分析」を得意としています。一方、「すららドリル」のAIは、解けない原因を自動的に判断し、必要な問題を適切に提示する「つまずき分析」に優れています。「先生×AIアシスト」のAIは、児童生徒の学習結果からつまずきの原因特定が必要だと判断した場合には、「すららドリル」を教材として提案します。これを解くことにより、児童生徒はやみくもに問題数をこなすことなく、どこで何につまずいているのかを可視化することができます。さらにその学習結果をフィードバックとして「先生×AIアシスト」の定着度データに反映させることで、複数の学習ドリルの中から、難易度に合わせたより最適な教材を提案していくことが可能になります。このように、「先生×AIアシスト」の学習定着度の分析に「すららドリル」の細やかなつまずき分析が加わることにより、児童生徒がつまずきを確実に克服しながら、これまで以上に自分に合った内容で学習を進められる仕組みを実現します。

#### **2. AIによる学習の分析から適切な教材の提示で、教員の業務をサポート**

学習の分析から適切な教材の提示までをAIが支援することにより、教員の業務負担を大きく軽減するほか、誰にどんな支援が必要かを可視化してくれることで、授業での教材選びや個別指導の判断も格段にしやすくなります。またこうした教育データを活用し、教育委員会による自治体全体の教育改善や教育政策立案に役立てることで、教育現場の課題解決を支援することにもつながります。



### 【すららドリルについて】

「すららドリル」はアダプティブ<sup>※</sup>なドリル機能と自動作問・採点機能を有するテスト機能、アニメーションの対話式レクチャー機能で構成された公立小中学校向けの ICT 教材です。AI を活用したつまずき診断や出題難易度のコントロールにより、一人ひとりの理解度に合わせて学習を進めることができます。

※ 学習者の学習状況や回答状況を見て適切な問題を提供できること

### 【tomoLinksについて】

tomoLinksは、不登校や外国籍の児童をはじめとした、学び方や理解のペースが異なる多様な子どもたちへの学びの機会の提供と個別最適な学びの実現、また教員不足や多忙な職場環境といった教育現場における社会課題の解決を目指し、2019年から開発をはじめたクラウド型学習支援サービスです。教育現場のフィードバックを製品に反映しながら開発を進めてきており、教育データ利活用を軸としたサービスで構成されています。これらのサービスを学校の教育プラットフォームとして導入することで、教育におけるDXツールとしてデジタル端末の利用だけでなく、教育データの効果的な活用が可能になり、子どもたち一人ひとりの力を最大限に引き出す個別教育の実現を推進します。

#### ■ 「先生×AIアシスト」サービス

子どもたちの教育データを元に一人ひとりの学力定着度合いをAIが分析し、先生の指導の

サポートや、それぞれの児童生徒に合った学びの学習方法を提案する、ダッシュボード機能とAIドリル機能を中心としたサービスです。

「先生×AIアシスト」の分析AIは、国内で初めて教材に依存せずに、学校が所持している既存の学力データや、新たにデジタルで提供される様々な企業の教材の学力データなどを分析することが可能です。従来、教材と分析AIが紐づいて一体となって提供されていましたが、tomoLinksは教材選択の制限を開放し、児童生徒一人ひとりがそれぞれに取り組んできた学習内容に基づいて、個別に最適な学習内容を提示します。

#### ■tomoLinksの教育データ運用方針について

tomoLinksは、文部科学省から示された学習ログデータの取り扱い方針に、いち早く対応しました（[2022年11月22日発表](#)）。tomoLinksでは、システム開発を含む商業的な利用を目的とした個人データの利用を行わず、教育委員会や家庭からの個人データの削除や解約時のデータ破棄などの依頼に対応する、データの所有者である生徒児童や保護者にとって安心安全なデータ運用を実現しています。

tomoLinks 公式サイト：[https://bs-offers.konicaminolta.jp/tomolinks/pr20250423\\_1](https://bs-offers.konicaminolta.jp/tomolinks/pr20250423_1)

#### 【展示会出展のご案内】

tomoLinksを「EDIX東京2025」にて展示説明します。

第16回 EDIX（教育総合展）東京  
会期： 2025年4月23日（水）～25日（金）  
10：00～18：00 ※最終日のみ17：00終了  
会場：東京ビッグサイト 南展示棟  
公式HP：<https://www.edix-expo.jp/tokyo/ja-jp.html>  
主催：EDIX実行委員会（企画運営：RX Japan株式会社）  
コニカミノルタジャパン ブース：25-1

#### 【お客様のお問い合わせ先】

コニカミノルタジャパン株式会社  
ICW 事業統括部 教育 DX 事業開発部  
<https://bs-offers.konicaminolta.jp/tomolinks/contact>  
（お問い合わせフォームよりご連絡ください）

----- 報道関係お問い合わせ先 -----

コニカミノルタジャパン株式会社 コーポレート本部 広報部  
TEL：03-6311-9460